Globalization begins within

グローバリゼーションはあなたの**心の内**から

青山学院大学
国際政治経済学部

国際政治経済学部は
2022年に40周年を迎えました

https://www.aoyama.ac.jp/post02/2022/news_20220629_01

2024年６月発行

青山学院大学　国際政治経済学部

SIPEC 2025

School of International Politics, Economics and Communication

Globalization begins within

国際系学部のパイオニアとして
新しい価値を創造し、発信するグローバルリーダーを育成

なぜ、国際政治経済学部なのでしょうか？

それは、国内外の多様性がますます進み、

多様性や不確実性に対応できる力が

求められているからです。

本学部では国際政治学、国際経済学、

国際コミュニケーション学を

それぞれ深く学び、

さらに3分野を有機的に統合して学びます。

日々の学びの中で、

学生の多様性への対応力やリーダーシップスキル 、

批判的思考力・問題解決力、

外国語運用能力、発信力を育んでいます。

Globalization begins within

IT技術の発達や人工知能の発展は私たちの日常生活を益々便利なものにし、ネットワーク上で世界の誰とでも意見交換することを可能にしました。しかし、世界のあらゆるところで紛争は繰り返され、想定外の災害も頻発し、より不確実な世の中になってきています。
グローバリゼーションは心の内から始まります。今こそ、国、言語、民族、習慣、ジェンダーによる違いを越えた共生・協働が私たちに求められています。学生一人一人が他者を尊重し、多様性から新しい価値を創造し、真のグローバルリーダーとして社会にはばたいていけるよう私たち国際政治経済学部は共に歩んで参ります。

国際政治経済学部長
内山　義英
Uchiyama, Yoshihide

教育の特色1 | 深い専門性

専門知を磨き、統合知を獲得する

グローバルな課題を解決するために必要な国際政治、国際経済、国際コミュニケーションの専門的な知識や洞察力。さらに、これらを統合的に理解し、国際社会を見通す力。本学部では、3 学科 5 コース制で学問的な専門性を磨きつつ、専門の垣根を越えて多角的に物事を捉える力を養います。

「知」を集め活用する力を培う

少人数ゼミをはじめ、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、グループワークといった学びのスタイルを多くの授業で取り入れています。それは自ら問いを発し、その問いを仲間と共有しながら学問的に解決していくプロセスを重視しているからです。

3学科5コース ► PP.03-04

1から4年次へと続く少人数ゼミ ► PP.05-06

教育の特色2 | 高い国際性

英語で考え、協働する力を身につける

「国際」に特化した学問領域や国際理解科目に加え、国際問題や時事問題をベースとした外国語プログラム、70を超える専門科目の英語講義や豊富な留学・海外研修などを通して、ユニバーサルなコミュニケーション能力を高めます。

英語で学ぶ専門科目 ► PP.07-08

世界を舞台に活躍する人材を育てる ► PP.09-10

海外で学ぶ 豊富なプログラム ► PP.11-14

国際政治経済学部は、以下の資質をもった学生をお待ちしております。

- 国際社会の動向およびあり方についての知識と関心を有している。
- 自らの力で主体的に思考し、判断し、表現できる。
- 学びを通じて他者と積極的に協力・協働し行動する意欲を有している。

国際政治経済学部 3学科のアドミッションポリシー（入学者受入れの方針）については以下をご確認ください。
www.aoyama.ac.jp/faculty/sipec/

※2024年7月時点での情報です。
内容は変更となる場合がございます。

専門知を磨き、統合知を獲得する

3学科 5コース

世界の課題を解決する知を得る

政治・経済・コミュニケーションを学ぶ

■ 国際政治経済学部生として求められる、国際問題を考える基礎と幅広い視野を身につける

専門性を深めるコース選択

■ 希望に合ったコースを選択し、各分野の専門性を深める ……2年次

自由に学べる、ゼミを選ぶ

■ 基礎と専門性を課題解決力に変えるゼミ。 所属する学科にとらわれず自由に選ぶ ……3年次

■ 学ぶ意欲に応じて、学科・コースの枠を超えた科目を履修する

国際政治学科

国際社会の多様な現実を知り、問題解決力を身につけ、自らの考えを発信する

政治外交・安全保障コース

■ 国家や地域の視点から国際関係を考察

■ 外交・安全保障問題の分析と解決提言を行う

グローバル・ガバナンスコース

■ グローバル社会のルールや制度のあり方を検討

■ 地球規模の課題を分析し、問題解決を模索

学科科目例

国際関係論入門
政治理論入門
アジア政治入門
環太平洋政治入門
アメリカ政治入門
ヨーロッパ政治入門
中東政治入門
アフリカ政治入門
国際交流実務論
政治分析概論
政治外交・安全保障概論
グローバル・ガバナンス概論
国際政治経済学概論
国際関係史概論
国際法概論
データ分析概論
政策過程概論
政治過程概論
政治学方法概論
国際機構概論
国際NGO概論
日本の外交
日本の防衛
国際安全保障論
比較政治論
日本政治論
中国政治論
アジア太平洋政治論
アメリカ政治論
国際法
外交史
国際関係理論
政治思想史
国際正義論
計量政治分析
国際政治経済論
国際制度論
国際平和協力論
EU論
国際環境論
国連研究
ジェンダーと国際政治
人の移動と国際関係
など

演習論文テーマ例

- 国連WFP協会の認知度・寄付額を向上させるには
- 新疆ウイグル自治区と中国共産党統治
- 映画におけるポリティカル・コレクトネスの本質
- 米国輸出管理政策からみる経済安全保障
- COVID-19の発生源と民族差別

[Vision of the Future]

国際機関や公的機関、国際的な企業に就職するなど、広く国際社会に関わりたい

国際経済学科

世界経済・経営が直面する新たな潮流をつかみ、確かな分析力を身につける

国際経済政策コース

■ 国、産業レベルでの国際的経済問題を分析

■ 経済理論に基づいた政策提言を行う

国際ビジネスコース

■ 国際ビジネスや経済活動に対する視点を身につける

■ 企業行動や企業マネジメントなどを実践的に分析する

学科科目例

経済学入門(ミクロ)
経済学入門(マクロ)
国際経済学入門
国際経済政策入門
国際ビジネス入門
グローバル経済史
開発経済学入門
社会科学のための統計学入門
社会科学のための数学入門
情報と組織の経済学
ビジネス・マネジメント
グローバル経営論
金融
ミクロ経済学
マクロ経済学
国際公共経済学
国際貿易
ゲーム理論
国際産業論
国際経済A・B
国際金融とデータサイエンス
計量経済学
ビジネス・エコノミクス
多国籍企業論
国際労働経済学
管理会計論
コーポレートファイナンス
政治経済実証分析
国際環境経済政策論
環境リスクガバナンス
国際会計
日本経済
中国経済
地域研究(アジア経済)
地域研究(EU経済)
地域研究(アメリカ経済)
など

演習論文テーマ例

- Suggestions for the Circular Economy of Food in Japan – From the Perspectives of Production, Consumption and Recycle
- SNS使用頻度と同性愛に対する寛容度の関係 – SNSは同性愛への理解を促進するのかー
- タンガニーカ・ナショナリズムにおけるアジア系人に対する排他性の特質 –公務員のアフリカ人化(Africanization of civil service)に注目してー
- メンズコスメの市場動向から見る男性の美意識変化
- 低中所得国におけるフェアトレード認証の決定要因分析 –生産者組織の参加の可能性に関する考察—

[Vision of the Future]

国際金融や発展途上国の企業に就職して国際ビジネスの舞台で活躍したい経済開発に携わったり、

国際コミュニケーション学科

異文化を理解し、人と人、人と社会、社会と社会をつなぐコミュニケーションを理解する

国際コミュニケーションコース

■ 「言語」、「地域文化・比較文化」、「コミュニケーション」の3つの視点からグローバル社会の課題を考察する

学科科目例

国際コミュニケーション総論
コミュニケーション論
国際ビジネス・コミュニケーション
Intercultural Communication
インターカルチュラル・トレーニング
コミュニケーション研究法の全体像
コンピュータによる調査データの解析
アンケート・社会調査の方法
言語科学概論
言語の仕組み
社会言語学入門
Structure of Japanese
言語と人間
英語発音の理論と演習
ディスコース分析
多言語社会とコミュニケーション
実践・通訳コミュニケーション
Culture and Society
Intercultural Literacy
宗教文化論
文化研究概論
スペイン文化論
ロシア東欧文化論
中国文化論
イベロアメリカ文化論
ヨーロッパ文化論
国際協働学習
異文化コミュニケーション特講
など

演習論文テーマ例

- グローバル化に伴う日本食文化の維持と変容
- 性的マイノリティのカミングアウトに至るまでの思春期・青年期における変容過程 –複数径路・等至性モデル(TEM)による分析—
- On What the Presence/Absence of Expletives Suggests for Null Subject-Verb Agreement
- 日本語歌唱曲における語アクセントと旋律の関係とその変遷
- 移民に対する言語教育:日豪比較から探る多文化共生社会の行方

[Vision of the Future]

マスコミ、商社、サービス業、金融業はもちろん、海外協力事業団、国際交流事業、通訳・翻訳業界に挑戦したい

詳しくは大学Webサイト(www.aoyama.ac.jp/faculty/sipec/curriculum/)をご覧ください。

「知」を集め 活用する力を培う

単に知識を得るだけでなく、自ら課題を発見し、仲間と共有しながら学問的に解決していく能動的な学びを重要視しています。その軸が、1年次の入門セミナーから3･4年次の演習へと続くゼミ。
3･4年次の演習は一学年あたり平均6名と少人数です。

1年次 → 2年次 → 3年次・4年次 → 演習論文

入門セミナー

専門分野への導入と学習の方法やスキルの獲得

本学部で学ぶ専門分野について、様々な角度から触れることによって、その概要を把握します。
また、資料文献の読み方、レポートの書き方、プレゼンテーションやディスカッションの方法など、大学生として必要なスキルを演習形式の能動的な学習によって身につけます。

入門セミナー

あらゆる題材の中から、課題を発見し、整理して考え抜く力をつけるセミナーです。
隔週で講義を聴き、グループディスカッションで問題点を明らかに。翌週のセミナーでプレゼンテーションを行います。自分たちでゼロから作り上げる授業といえます。

プリゼミ

専門知識の修得 論理的思考力・表現力の獲得

専門的な学びへの導入期間。少人数制のクラスで、1年次に関心をもった分野の教員と連携しながら、専門知識を築きます。研究・プレゼンテーション・ディスカッションなどを通して論理的思考力・表現力を培い、専門的な研究へつなげていきます。

プリゼミ

開発経済学の少人数制クラスです（英語講義）。教育、開発金融、ジェンダー、農業、人口問題、移民等、幅広い開発テーマの中から学生自身が関心に応じてテーマを選択し、グループ発表後にみんなで議論します。
また、アジアやアフリカ出身の研究者をゲスト・スピーカーとして招き、途上国の開発課題について直接議論出来る場を提供します。

コミュニケーション学の奥深さを感じる

前期では、レポートや論文を書く基礎となるアカデミック・ライティングを学びました。文献引用のやり方から、聞き手を惹き付けるプレゼンテーション力まで身についたと思います。後期は、各先生が自身の研究について講義してくださるのが中心です。印象に残っているのは「パーソナルスペース」についての講義。たとえば満員電車の中や、対人関係の親密度によっても自分のパーソナルスペースが変化することを知り、とても興味深かったです。

Profile
国際コミュニケーション学科　国際コミュニケーションコース 2年
相澤　和 さん
AIZAWA, Nagomi
英語力を磨き、留学経験をしたくて国際政治経済学部へ進学。念願叶って1年次では2週間アメリカ・サンフランシスコへ。低所得者や児童館の子どもたちへのボランティア活動を通して自身の価値観が変わった。

3年次からのゼミに活かせる必要不可欠な学び

プリゼミは、国際政治経済学部の３つの学科（国際政治／国際経済／国際コミュニケーション）から学生が集まります。異なる専門領域の人たちと共に、オールイングリッシュで学べる授業はとても刺激的でした。言語力がついたと実感しています。また、文献の読み方や分析、スライド作成とプレゼンテーション、討論の力などを養えたのも大きなメリット。これらは３年次からのゼミで必要不可欠となる力であり、実際にゼミで十分活用することができました。

Profile
国際経済学科　国際ビジネスコース 3年
KIM DAMDUCK さん
韓国・ソウル出身で、将来は日本で貿易会社を起業するのが夢。そのため、経済だけでなく国際政治、コミュニケーション、言語能力と多様な知識を身につけられる国際政治経済学部は最高の環境だという。

演 習

課題解決力の育成 専門知識と思考力・表現力を結びつける

学科にこだわることなく個々の学習目標に合わせ自由にゼミ選択が可能です。一学年あたり平均6名の少人数クラスにより、研究発表や討論中心の授業が展開されます。
専門分野を深める過程で、幅広い視野の獲得、論理的思考力、表現力を身につけ、課題解決能力を養うと同時に、将来の方向性を見いだしていきます。また、卒業に向けて、研究テーマを深化させ、演習論文にまとめます。

ゼミテーマ例

※詳しくはP.21の教員紹介をご覧ください

国際政治部門
- 国際社会における法の支配
- 外交・国際安全保障問題の社会科学的分析
- グローバリゼーションの政治経済学

国際経済部門
- 社会・組織・私の問題の経済分析
- 企業活動や規制・産業政策・競争政策に関するデータ分析
- グローバルな視点から学ぶ経済史

国際コミュニケーション部門
- 多文化社会の諸相
- 異文化コミュニケーション
- 自然言語の音声・音韻研究

国際マネジメント部門
- 企業経営と価値創造そしてアート

演 習

国境を越える諸問題とグローバル・ガバナンス

国際政治学科
教授　藤重 博美

「グローバル・ガバナンス」は、国境を越える諸問題（パンデミック、気候変動、飢餓、難民、テロなど）の解決に役立つのか？

現在、国際社会では、急激なグローバル化の進展に伴って国境を越える諸問題が急増するとともに、一国単位で解決できることが減り、代わって国際的な問題解決の協力体制「グローバル・ガバナンス」が重要になっています。本ゼミでは、21世紀の国際社会が直面する様々な問題、たとえば、新型コロナのようなパンデミックを防ぐための国際協力、気候変動と武力紛争やテロの増加や、飢餓や難民発生との密接な関係、人権やジェンダーに関する国際的な規範の広がり等を検討します。グローバル・ガバナンスで活動する様々なアクター（国連、NGO、個人）の役割についても考察します。

藤重ゼミのメンバー。ディスカッションしたり、お互いを高め合う存在。

藤重ゼミ風景

興味関心の追求と、卒論の英語執筆に挑戦

私は早くから地球温暖化に関心を持ち、中学・高校でも自主学習のテーマにしながら勉強を続けてきました。藤重先生は国連平和維持活動（PKO）に深い知識をお持ちです。世界的な社会問題に対してどう国際機構が活動しているのかを、詳しく学ぶことができました。
また、藤重ゼミでは、希望者は卒論を英語で書くことができ、私も英語で卒論執筆中です。私は高校のイギリス留学でイギリス文化に魅了され、大学でも１年間、協定校留学でイギリスに行きました。留学経験や日常的に受講してきた英語講義での成果を、ぜひ論文という形で残したいと考えたのです。少しずつ書いた論文の進捗を発表し合い、ディスカッションを通して内容を深めていくゼミのスタイルも新鮮。研究題材がまったく異なる論文にも触れることができ、視野の広がりと柔軟な思考力を身につけることができました。

Profile
国際政治学科　グローバル・ガバナンスコース 4年
柴宮 果歩 さん
SHIBAMIYA, Kaho
幼少期はアメリカに住み、その後、二度のイギリス留学を経験。大学では地球環境問題に関する国際政治の動向を習得。優れた語学力と大学での学びを活かし、将来はグローバル企業に携わり社会貢献を目指す。

英語で考え 協働する力を身につける

本学部では、英語で論理的に考える力、英語を使って協働する力を身につけ、
グローバルな課題を解決するための人材育成を目指しています。
全クラス20人以下で、授業の多くが英語で行われています。
また、入学時のTOEIC®学内試験の結果をふまえた能力別のきめの細やかな授業を行っています。

学びの特徴

国際問題や時事問題などの実践的な題材を通じて、Listening、Speaking、Reading、Writing の４技能の向上を図ります。
また、論文作成やビジネスの場で通用する、アカデミックな英語力の育成を目指しています。

Listening　Speaking
4 技能の強化
Reading　Writing

×

Contents Based

国際問題や時事問題などの実践的な題材

英語授業カリキュラム

学年が進むと、英語で論文を書くクラスや、通訳者・翻訳家による指導を受けるクラスを通して、アカデミックな能力と高度な実践的スキルを伸ばすことができます。
また、数ある専門科目を英語で学ぶ機会も多く設けられています。

1年次【必修】	● Writing Ⅰ・Ⅱ ● Reading Ⅰ・Ⅱ ● Media Literacy	● Public Speaking ● Internet English ● Debate & Discussion	専門科目（英語講義）
2年次【必修】	● Writing Ⅲ・Ⅳ ● Reading Ⅲ・Ⅳ	● Academic English ● English Seminar	
3年次【選択科目（科目例）】	● Academic Writing ● Academic Listening ● Academic Presentation Skills ● 通訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ ● 翻訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ ● 英語の音声	● Business Communication Ⅰ・Ⅱ ● Media Communication ● Cyber Communication ● Negotiation Communication ● Conference Communication	

英語で学ぶ専門科目

英語で学ぶ

100を超える英語講義・専門科目を英語で学ぶ

point 1
英語での理解力・発信力UP

英語で日常的に思考し、海外からの留学生と机を並べて英語で討論し、また英語でレポートを作成するなど、専門分野において英語でアカデミックワークをする力を強化します。英語は非母語話者を含め話者がもっとも多い言語です。英語でアカデミックワークをする力は、近い将来社会に出てからも大いに役立つはずです。

point 2
留学準備に最適

専門科目を英語で学ぶことで、留学先で英語環境にスムーズに溶け込むための準備ができます。留学帰国生あるいは海外就学経験者は、海外で鍛えた英語の能力をさらに伸ばしていくことができるでしょう。また、海外留学・海外大学院進学相談室で留学に関する専門家のカウンセリングを受けられるなど、本学部ならではの特典もあります。

point 3
グローバル環境に対応した教員陣

教員のうち９割以上が博士号取得者であり、４分の３の教員が海外で学位を取得しています。その数は私立大学学部の中でも群を抜いています。
さらにアメリカ、中国、韓国、ロシアなどの国籍をもつ教員もおり、各地域への留学の相談に乗っています。このように、本学部はこれからも、グローバル系学部の草分けとして進化を続けていきます。

英語で実施される科目例

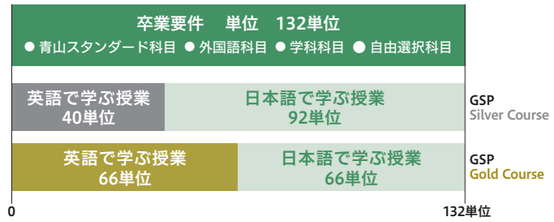
- Culture and Society
- Intercultural Communication
- Global Studies Ⅰ～Ⅷ
- Structure of Japanese
- 政治外交・安全保障概論Ⅱ
- グローバル・ガバナンス概論Ⅱ
- グローバル経営論Ⅰ・Ⅱ
- マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
- ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
- 異文化コミュニケーション特講Ⅰ
- 国際コミュニケーション総論Ⅰ・Ⅱ
- グローバル経済史
- 国際関係史概論
- 国際経済Ａ・B
- 国際労働経済学Ⅰ・Ⅱ
- 国際経済政策入門
- 国際正義論
- 国際平和協力論Ⅰ・Ⅱ
- 国連研究
- 国際政治学特講Ⅰ
- 社会言語学特講
- 多国籍企業論Ⅰ
- 日本経済
- 地域研究（アメリカ経済）
- 地域研究（EU経済）
- 日本政治論 Ⅰ・Ⅱ
- 日本文化論
- アメリカ政治入門
- プリゼミ
- 演習ⅠA・ⅠB／ⅡA・ⅡB
- Business Communication Ⅰ・Ⅱ
- Conference Communication
- Negotiation Communication

Global Studies Program

グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）

卒業要件132単位の1/3 ～半数を英語で学ぶプログラムです。
修得単位数に応じてSilver Course、Gold Course※として修了証が授与されます。英語により行われる専門科目のほか、協定校留学、短期海外研修で修得した単位等が対象となります。

※Silver Courseは40単位以上、Gold Courseは66単位以上が修了要件です。



VOICE　グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）選択者インタビュー

英語を積極的に学べる環境

GSPは卒業単位の半分、もしくは3分の1を英語講義で修得するプログラムです。このプログラムを選択すると、学部生向けの英語講義を優先的に履修することができます。私は留学から帰国した後、英語力を保つために英語講義を多く取りたいと考え、GSPに申し込みました。授業は、生徒が積極的に参加し教授とのコミュニケーションも頻繁に行われる点で、留学先での授業に近い環境であると感じます。レクチャーや資料、プレゼンテーションは全て英語のため、難しいと思うこともありますが、日本にいながら英語を話す環境に身を置ける貴重な機会だと思います。私自身も帰国後の英語力維持にとても役立ちました。特に、授業内でプレゼンテーションやディスカッションをする機会が多く、自分の意見を英語で伝える力を養うことができました。また、会話とは違うフォーマルな英語も身に付けることができたため、卒業後も活かしていきたいと考えています。
最後に、GSPでの英語講義は比較的クラスの人数が少ないこともあり、教授は一人一人を見てくれて親身にアドバイスもしてくださいます。留学を考えている学生だけでなく、英語力向上に意欲のある全ての学生にお薦めできる制度です。

国際経済学科
国際ビジネスコース ４年
杉　さやか さん
SUGI,Sayaka

世界を舞台に活躍する人材を育てる

卒業まで続く英語の学び

English for Juniors and Seniors について

本学部では、「3年生、4年生が履修できる英語のスキルを上達させる科目を開講して欲しい」という学生の声に応えて、「English for Juniors and Seniors」という英語プログラムを開講しています。近い将来社会に出て行く3年生、4年生が履修する授業であることに鑑み、学生の研究に資する能力、社会に出ても有用なものとして残る能力の獲得・向上に焦点を当てる科目を提供しています。

VOICE 授業担当教員の声

Academic Presentation Skills
勝又 恵理子 教授　KATSUMATA, Eriko

デンマーク・オーフス大学(Aarhus University)とのCOIL型教育を活用した協働学習から学ぶプレゼンテーション能力と異文化理解の向上

多様な文化が共存する社会になり、様々な文化背景を持つ人の前で英語プレゼンテーションをする機会が増えています。本コースでは、国際的な社会で役立つ実践的な英語によるプレゼンテーション能力を向上させること、そして質疑応答を通して英語でのディスカッション能力を養うことを目標としています。

その一例として、デンマークのオーフス大学とCollaborative Online International Learning (COIL)型教育の一環として非同期・同期型交流を通じて、自国の文化や社会問題についてのディスカッションを行います。本学部生はデンマーク文化について英語で発表、オーフス大学生は日本の社会問題を日本語で発表することで、グローバル教育を実践し、実体験としての学びに繋げることができます。

講義内容をチェック

第二外国語を通して拓くグローバルな視野

第二外国語について

広く国際的な視野を育てるために、英語以外の外国語として、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語からひとつを選択して学習します。
言語運用能力を養うだけでなく、異文化理解を深めるために、各言語の文化について学ぶ授業もあります。
どの言語も1年次には未修の学生がほとんどですが、中には、2年次または3年次から、その言語を使用する国へ交換留学できるほど上達する学生もいます。

VOICE 授業担当教員の声

スペイン語文献精読 I
鳥塚あゆち 准教授　TORITSUKA, Ayuchi

媒体によって異なる多様な文章を読み、言語の背景にある文化に接近する

本学部の第二外国語カリキュラムでは、2年間で文法とコミュニケーションを学ぶ6単位の履修が必修となっています。「文献精読」は、2年間の学びを基に、書かれた言葉を読み解き、その言語をより深く知る授業となります。文法の正しさだけを考えた機械的な翻訳はあまり重要ではなく、書かれている内容に理解を示し、書き手の意図を汲み取りながら文章を読むことが求められます。必修の授業では扱われない長い文章や、ネイティブが日常的に使用する表現などに向き合うことで、その言語がもつおもしろさや難しさがわかるようになります。

この授業では、既習文法を復習しながら、ニュース記事、エッセイ、解説文など、多様な媒体に表現されるスペイン語の文章を読みます。文と文の繋がり、時制の使い方、単語の選び方などを学ぶことでスペイン語の文章構造を理解し、またどのような日本語の表現に訳すことが適切なのかを考えます。同時に、読み物の内容を通してスペイン語圏の文化や社会、歴史への理解を深めることも目標としています。

講義内容をチェック

海外で学ぶ豊富なプログラム

青山学院大学の 留学制度

青山学院大学には、休学することなく長期留学が可能な「協定校留学」(交換留学)と「認定校留学」(自分が希望する大学を留学先として申請する制度)があります。毎年本学部から40名程度(※)の学生が協定校・認定校への派遣交換留学を経験しています。また、夏期・春期を利用した海外語学・文化研修や海外インターンシップなど豊富なプログラムに加え、奨学金制度も用意しています。

※2023年度実績

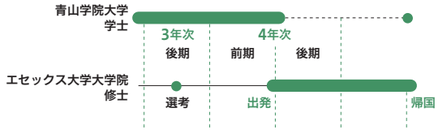
■各国の協定校数

アジア				オセアニア		北米・南米		ヨーロッパ			
インド	1	モンゴル	1	オーストラリア	6	カナダ	4	フィンランド	2	スペイン	4
ミャンマー	1	ベトナム	2	ニュージーランド	1	アメリカ	42	スウェーデン	1	イタリア	2
タイ	6	中国	9			メキシコ	1	ノルウェー	1	スイス	1
マレーシア	3	香港	1			エクアドル	1	デンマーク	1	ポーランド	3
インドネシア	1	ブルネイ	1					アイルランド	2	チェコ	1
フィリピン	1	台湾	5					イギリス	4	ハンガリー	1
韓国	11	カザフスタン	1					ベルギー	1	セルビア	1
								オランダ	2	ブルガリア	1
								ドイツ	8	ロシア	2
								フランス	9	ウクライナ	1
										スロベニア	1

エセックス大学　ダブルディグリープログラム

ダブルディグリープログラムとは？

4年次後期から1年間、エセックス大学大学院(イギリス)へ留学することで、青山学院大学の学士とエセックス大学の修士の学位を4年半で取得できる、本学部独自の留学プログラムです。2023年度から奨学金制度を整備しました。



参加学生は下記の所属コース例のように、国際政治経済学部での学びを活かした多様なコースで修士号を取得することが可能です。
2021年度にこのプログラムを終了した最初の卒業生は、エセックス大学のGovernment Departmentに所属し、MSc Social Data Scienceの学位(Distinction付き)を取得しました。さらに修士コースでの最優秀賞も受賞しています。
このように国際的な視野を広げるのに理想的な環境の中で、多様な選択肢の中から、自身の専門分野を深めることができます。

■所属コース例

- MA Politics
- MA Economics
- MA English Language and Linguistics
- MA Conflict Resolution
- MSc International Business and Entrepreneurship
- MA Political Theory
- MSc Social Data Science
- MA Linguistic Studies
- MA International Development
- MA Political Economy
- MPP Public Policy
- MA International Relations
- MA Advertising, Marketing and the Media

他、多数のコースを用意。

■こんな方におススメ

- 海外大学院での修士号取得や研究職を目指す方
- 国際機関や外資系会社等への就職を希望している方

■派遣実績

・2022年度　2名　　・2023年度　2名　　・2024年度(予定)　3名

■留学先情報／エセックス大学(イギリス)

point 1
質の高い教育
社会科学分野において世界で高い評価を受けている。

point 2
国際色豊かな環境
学生の約40%が留学生で、130 ヵ国以上の国々からの留学生を受け入れている。

VOICE　ダブルディグリープログラム体験者インタビュー

国際性あふれる場所での学び

エセックスを一言で表すならば、「国際性」です。ヨーロッパだけでなく世界各国から留学生や先生方が集っているため、日々驚きの連続です。特に、私が専攻している国際紛争においては国や地域によって様々な見方や意見があり、常に刺激を受けています。青学と比べると授業数は少ないですが、各授業で与えられる課題やリーディングの量は多く、質も要求されます。多くのリサーチをこなして説得力のある理論を展開する必要があるので苦労することも多いですが、定量的な分析など新しいことに触れる機会もあり興味深く勉強をすることができています。一方、生活面においては近くにスーパーもあり、休みの日は電車でロンドンに出かけることもできるため、フラットメイトや友達と話して国際交流をするなどしてリフレッシュしています。大学院修了後は、確かなスキルと共に、日本だけでなく世界に貢献できる人物になれるよう、キャリアを積んでいきたいと考えています。

国際政治学科
グローバル・ガバナンスコース 4年
包國 遥太さん　KANEKUNI, Yota

VOICE　留学体験者インタビュー

世界が広がり、新たな自分と出会えた中国留学

［留 学 先］北京大学(中国)

日中関係について実情を自分の目で確かめたい、国際関係について多角的に学びたい、という想いで中国・北京での留学を決めました。北京大学は、世界における最高学府のひとつとして知られており、生徒の学習意欲が非常に高く、当初は圧倒されてしまいました。現地生や世界各国からの留学生と共に受ける授業は、多様な意見が行き交い、刺激を受ける毎日で、常にワクワクしていました。ハイレベルなクラスに追いつくのは大変でしたが、その分大きな収穫を得ることができたと断言できます。また、四季の変化を楽しむことができる自然豊かなキャンパスでは、幅広いイベントが多々行われ、新しい友人を作る絶好の機会です。彼らとはいまだに連絡を取り合う仲で、一生の宝物です。こうした環境の中、公私共に充実した留学生活を送ることができました。中国語・英語の向上、中国に対する理解を深めることができるだけでなく、多種多様な価値観や世界観に触れ、新たな自分と出会うことができる中国留学を、心よりおすすめします。

国際コミュニケーション学科
国際コミュニケーションコース 4年
岩元 新さん　IWAMOTO,Sara

国際政治経済学部はオンライン・オフラインを自由自在に切り替え、どのようなときも学部独自の海外研修プログラムを実施しています。

ハンドン大学（韓国）・国際政治経済学部協働短期研修

このプログラムは本学部の教員と韓国のハンドン大学の教員が協働で構築したものです。プログラムでは東アジアの経済、政治、文化、コミュニケーションを学び、現地学生との交流を深めます。ハンドン大学は、国際色豊かな、青山学院大学と同じくキリスト教に基づく教育を実践している大学です。人格教育の分野でも高く評価されており、IT、金融をはじめとする様々な業界でグローバルに活躍する卒業生を多数輩出しています。2023年度は韓国へ渡航、2024年度はハンドン大学の学生が来日します。

VOICE

討論を通じた異文化交流が新たな知見をもたらす

国際政治学科　グローバル・ガバナンスコース 2年
中村 祥太朗さん　NAKAMURA,Shotaro

青山学院大学とハンドン大学の教授陣による政治、経済、文化、AI、コミュニケーションに関する講義の内容を基に、両大学の学生によって構成されたグループで討論を行い、プレゼンテーションを作成して研究発表を行います。私たちのグループでは日韓両国の経済成長について、経済における歴史上の転換点や人口動態といった様々な視点から討論を重ねました。講義後、研究発表後の質疑応答では両大学の学生から建設的な意見が飛び交い、教室はどのようにすれば私たちの社会をより良いものとすることができるのかについて考察する活気あふれる場となりました。この研修プログラムでは講義やディスカッションなどすべての活動が英語で行われるため、学術的な知識と英語力を養うことが可能です。また、母語や価値観の異なるメンバーと共に研究を進めることで新たな知見を得ることが期待できます。

Missouri State University SDGsプログラム　オンライン開催　2023年度は実施なし

バーチャルトリップでSDGsを体験的に学び、考え、成長する

このプログラムでは、国連が定める持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals – SDGs）をテーマに、ミズーリ州スプリングフィールド周辺をバーチャルトリップで訪問し、現地のSDGsの取り組みの例を学び、その取り組みに携わる方々のお話を聞くなど、英語で体験的に学ぶことができます。3週間のプログラムでは、最終日の研究発表に向けてオンデマンド形式とリアルタイム形式で学習し、教員、メンターや現地学生との交流を通じて、英語でのインプットとアウトプットを繰り返しおこないます。プログラム終了後には、参加前よりも格段にスキルアップした英語力を実感できるでしょう。

VOICE

オンラインでSDGsを学んだ夏休み

国際経済学科　国際ビジネスコース 3年
南出 未晴さん　MINAMIDE, Miharu

一ヶ月間のミズーリ州立大学のプログラムを通じてSDGsについて理解を深め、最終日にはSDGs達成のための取り組みについてプレゼンテーションを行いました。特に現地での慈善団体による講義がとても印象的でした。ホームレスに無償で住居を提供する団体、排水を処理して川の水質改善に取り組む団体などたくさんの団体から貴重なお話を伺うことができます。講演を通して、社会を変えたいという熱意を感じるとともに、身近なところでも課題が山積みであることに気付かされました。他にも、効果的なプレゼンテーションの方法を教わることができます。英語での発表と聞いて最初は何をしたらよいか見当もつきませんでした。しかし、プレゼンテーションならではの英語表現や聞き手の注意を引くコツを教わったことで自信につながりました。さらに、前日には先生やメンターからアドバイスをいただき、発表をより良いものに仕上げることができました。

一ヶ月という短い期間でも世界に通用するスキルを学べたと実感すると同時に有意義な夏休みを過ごすことができました。

ランプン大学（インドネシア）・国際政治経済学部協働短期研修　オンライン開催

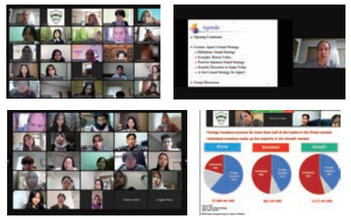
インドネシアのランプン大学と本学部の教員が協働で構築したプログラムです。インドネシアと日本の政治、経済、文化、コミュニケーションについて学ぶプログラムで、2020年度よりオンラインで実施しています。バーチャルで工場見学をしたり、ディスカッションを通じて学生同士からも多くを学びます。

VOICE

異文化交流の刺激と学ぶ楽しさに溢れた日々

国際コミュニケーション学科　国際コミュニケーションコース 2年
戸崎 奏さん　TOZAKI, Kanade

ランプン大学とのオンライン研修プログラムでは、双方の教授による講義で政治や経済、コミュニケーションなどについて見識を深めました。また、日本ならびにインドネシアの地域の産業に携わる方々から直接お話を伺い、遠く離れていながらも身近な存在として捉えられるようになりました。加えて、ディスカッションや雑談など発言する場面が多いため、刺激を受けながら自分の考えをまとめる良い機会でした。自身にとって当たり前のことであっても、インドネシアの学生からの鋭い意見にハッとさせられることが多くありました。そして、Cultural Exchangeでは日本側から茶道やスタジオジブリなどについて紹介し、インドネシアの学生はローカルフードやアミューズメントパーク、インドネシアの多言語使用などについて動画を作成し、お互いの文化を共有しました。こうして、このプログラムは、お互いの目に見える形の文化から、その根底にある知識まで理解を深めることのできる実り大きな一週間でした。



海外ボランティア実習

NPO法人 ICYEジャパン主催の海外ボランティアプログラム。活動地域はヨーロッパ、北中米、オセアニアの約30カ国にわたり、「環境保護」、「児童福祉」、「教師アシスタント」などのプログラムに参加します。国際コミュニケーション関連科目の学びと実践ボランティアを結びつけることで、知識や語学力の向上だけでなく、国際理解や異文化コミュニケーションのスキルを向上させることができます。

VOICE

現地の小学生から学んだ「違うことは当たり前」という価値観

国際政治学科　グローバル・ガバナンスコース 3年
帖地 美咲さん　CHOCHI, Misaki

ICYE主催の海外ボランティアプログラムの一環で3週間サンフランシスコに滞在し、バイリンガルプログラムを展開する公立小学校で日本語教師アシスタントを行いました。日本語の読み書きや会話表現の授業サポート、ランチタイム交流、書道やお月見といった日本文化体験の他、最終週には貴重な模擬授業の機会も頂きました。肌の色や目の色、髪質といった容姿は勿論、バックグラウンドや価値観も異なる児童が集う場で濃密な時間を過ごして実感したことは「違うことは当たり前」という価値観でした。誰かと異なることやはみ出すことを気にせず、寧ろそこにその人の良さを見出し、互いが心地よく生活するための術を、彼らは無意識のうちに身に着けていました。彼らの積極性や自己認識/表現力に圧倒され、日々私が教わることの方が多かったように思います。普通とは何か、自分は何者かといった自己探索の大変良い経験になりました。観光では得ることのできない、現地の人々とゼロ距離で関わることができるこのプログラムへの参加を決めて本当に良かったです。

ベトナム研修

国立ベトナム農業大学と提携し、現地の学生とペアを組んで調査から成果報告まで行う約1週間のプログラムです。大学での講義や現地のJETRO・JICAスタッフによる講義、日系および現地企業の視察、農村フィールドワークなどを通じて、開発経済や日本の開発援助などについて学びを深めます。

VOICE

未知との遭遇、学びと発見の一週間

国際経済学科　国際ビジネスコース 2年
門田 尚輝さん　KADOTA, Naoki

学部が主催する海外短期研修の一環として、国立ベトナム農業大学を訪問し現地の学生たちと様々なプログラムに参加しました。この研修では主に大学での講義や、JICAやJETROなどの現地での活動の視察、現地の農村調査のためのインタビューなどを行いました。また日本人学生とベトナム人学生でグループを作り、英語でコミュニケーションをとりながら、最終日に研修内容のプレゼンテーションをしました。開発経済学の授業で学んだ事柄を実地で体験したことによって、さらにその理解を深めることができましたし、講義を日本で受けただけでは得られなかった視点を持つことができたと感じています。

研修期間中は大学の留学生用の寮に滞在していたため、ベトナム人学生に留まらずラオスやカンボジアの学生とも交流を深めることができ、何度か夕食にも連れていってもらいました。この研修は私にとって初めての海外渡航でしたが、実りあるかけがえのないものになりました。

進学の動機や授業のようすを聞いてみよう

学生インタビュー

国際政治学科

国際政治だけでなく枠にとらわれない学びを吸収できるのが魅力

3学科を横断的に学べる

以前から、環境・貧困問題といったグローバルイシューに関心がありました。また、私は好奇心旺盛で、何か一つの専門分野に縛られたくないし、留学もしたい。そんな私の希望を満たしてくれるだろうと本学部への進学を決意しました。国際政治だけでなく経済・コミュニケーションと3学科を横断的に学べる環境は、まさに私の理想にピッタリでした。

学生主体のディスカッション形式

印象的なのは、学生主体に展開される大学の授業スタイルです。高校までのインプット型が主体の授業とはちがい、一つのテーマについて賛成・反対に分かれてのディスカッションは、とても新鮮でした。1年次に受講した入門セミナーがまさにその形式。特に、他者に自分の意見をわかりやすく伝える能力が養われます。

独自のリベラルアーツ教育

青山学院大学の特徴は、何といっても、所属学部・学科にかかわらず全学部の教養を広く身につけられるリベラル教育「青山スタンダード」です。枠にとらわれない学びを提供してくれる環境に感謝しています。今後は交換留学プログラムでアメリカへ行き、本場のジャズ音楽にも触れてみたいです。変化を恐れず、自分の価値観や視野を広げることに力を入れたいです。

栗原 珠莉 さん
KURIHARA, Juri
国際政治学科
グローバル・ガバナンスコース 2年

2024年5月撮影

時間割【前期】

	月	火	水	木	金	土
1	Writing III					
2	グローバル・ガバナンス概論 I	フランス語 II A－1	国際NGO概論		Global Studies V	
3		金融 I	Reading III	プリゼミ	フランス語 II B－1	
4		Global Studies III	日本の外交		Academic English	
5	現代社会と教育人間学 A			科学思想史 A		
オンライン	国際政治経済学概論			国際経済学入門		

国際経済 学科

国際色豊かな環境や 学部ならではの特講で自分の将来像を描けた

社会で役に立つ普遍的な学び

大学進学にあたっては、お金の流れなど、普遍的に人や社会について学べる経済学部に選択を絞っていました。将来、どのような職業についてもその知見が活かせると考えたからです。その中でも、グローバルな視点を養えると同時に、情報という学問領域の融合も得られる青山学院大学を選択。ゼミではPython（プログラミング言語）を使ったデータ分析を学んでいます。

魅力的な学部ならではの特講

国際政治経済学部では、様々な企業による特別講義があります。もっとも印象に残っているのは、EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社が行った「クロスボーダー M&A戦略論」です。M&Aプロセスの解説や企業IR情報の見方などは、働きたい企業を思い描くきっかけになりました。就活をするうえでとても役立っています。

能動的な行動の大切さ

2年次から大学内にある情報メディアセンターで働いています。スタッフのシフト管理に携わり、物事を俯瞰的に捉える力を身につけることができました。国際色豊かな環境のもと、様々な経験を通して“自ら動く”ことの大切さを実感。その学びを糧に、将来は「誰よりも早く適切に、社会に大きなインパクトを与えられる人間」になることが目標です。

林 瑋豫 さん
LING, Wei Yi
国際経済学科
国際経済政策コース 4年

2024年5月撮影

時間割【前期】（3年次）

	月	火	水	木	金	土
1						
2	国際金融 I	特講（クロスボーダーM&A戦略論）			特講（日本経済と証券ビジネス）	
3		ミクロ経済学中級 I				
4	演習 I A	国際制度論 I			財政論 I	
5	演習 I A				法学（日本国憲法を含む）A	
オンライン			知的財産法 A	公共政策論		

国際コミュニケーション学科

「英語で学ぶ」を実践 ことばを俯瞰でとらえ、教養を身につける

少人数クラスのメリット

これまでの学校教育と受験勉強で英語の楽しさを感じ、英語力を伸ばせる大学に行きたいと思って青山学院大学を選びました。1年次では、英語の授業が週4回。少人数クラスだからこそ、課題に対して先生のコメントが丁寧で、回答を学生同士で意見交換し合ったりできる。「英語を学ぶ」ではなく「英語で学ぶ」という学部のポリシーを感じます。

英語力をとことん伸ばす

仲野友子先生のWriting I, IIでは、英語の長文作成について基礎的な知識を習得。段階を踏んで教えていただけたので、書くのに抵抗がなくなったのだと思います。また、SARGENT, Joel Luke先生のPublic SpeakingとDebate & Discussionでは、オリンピックや原子力発電についてなど、多岐にわたる分野を取り上げて授業を展開。おかげで英語の語彙力が増え、リスニングもかなり上達しました。

ことばで、人と人をつなぐ

大学4年間かけて、もっと英語力を伸ばしていきたいです。さらに自身の学科である国際コミュニケーション学科では、言語について学ぶ言語科学概論やコミュニケーションについて基礎的な内容から非言語コミュニケーションなどについて学ぶコミュニケーション論などの授業でことばを俯瞰で捉え、学んでいます。これらの経験を活かし、将来は人と人をつなぐ仕事に就くのが目標です。

堂薗 真佳さん
DOZONO, Masayoshi
国際コミュニケーション学科
国際コミュニケーションコース 2年

2024年5月撮影

時間割【前期】

	月	火	水	木	金	土
1				Reading III		
2		フランス語 II A－1	現代史 B			
3	経済学入門（マクロ）		Writing III	コンピュータによる調査データの解析	フランス語 II B－1	
4	Academic English				音楽 A	
5						
オンライン	国際政治経済学概論	法学(日本国憲法を含む)A		英語の音声		
	コミュニケーション論 III	地域研究（アジア経済）I				

学生一人ひとりの想いを実現する

キャリアデザイン

本学部には毎年、グローバルな課題を解決したいという強い想いを抱く学生が入学してきます。
その想いを形にする論理的な思考力、異文化コミュニケーションスキル、グローバル課題解決に向けて実行する力を養うカリキュラムやプログラムを用意しています。同じ意識や目標を共有する学生が自主的に活動を行い、切磋琢磨する場として４つの学部公認学生団体を設置し、その活動を支援しています。

実践的なキャリア教育

1年次	2年次	3年次	4年次
演習科目　入門セミナー・プリゼミ ► P.05		演習科目　ゼミ ► P.06	
留学 ► P.11			
海外研修など ► P.13			

特殊講義　グローバルな諸問題とその解決策を検討するために開設されている講義
現役官僚や国際交流基金職員などが担当

現場の第一線で活躍する講師による本学部の特別講義の一部

国際交流実務論
独立行政法人 国際交流基金（The Japan Foundation）
国際交流に携わるエキスパートによる現場の視点に立った講義です。特に国際交流基金の3つの事業（文化芸術交流、海外での日本語教育、日本研究・知的財産）について認識を深めることができます。

日本の外交
外務省
日本の外交実務の第一線で活躍している外務省職員によるオムニバス形式の講義です。二国間・地域・地球規模のさまざまな分野にわたり、日本の外交の生きた姿を理解することを目標としています。

日本の防衛
防衛省
日本の防衛実務に精通した防衛省高官によるリレー式の講義です。日本を取り巻く安全保障環境、国際情勢の認識、自衛隊の運用など日本の防衛政策に関する幅広い知識を習得することが目標です。

国連研究
United Nations
現役の国連職員が英語で講義します。国際の平和および安全の維持を含む国際社会の諸問題は国連の立場・国連の視点からどのように解決されるのでしょうか。実践的な能力を養う絶好の機会です。

特講
（クロスボーダーM&A戦略論）
EY ストラテジー アンド・コンサルティング株式会社
戦略・M&Aコンサルティングに従事している、現役コンサルタントによる講義です。日本・グローバル企業のクロスボーダーM&A事例を教材に、M& Aや戦略コンサルティングの概念に加え、基礎的な会計・ファイナンス・法務知識の習得を目指します。

学部公認学生団体

外交・国際公務指導室
外交・国際公務指導室は国際的に活躍したい学生が集い、主体的に学び合う場です。異文化理解や主体性、柔軟性を養うために様々な活動を行っています。一年生、二年生は学生を講師とした勉強会により基礎を固めます。経済学や政治学の垣根を超え、幅広い知識の習得を目指します。三年生では発展的な活動として、学内懸賞論文を目標とし興味分野に応じた論文執筆をします。全体活動として指導室出身の外交官等による講演会を行う他、政策シミュレーションも行います。
将来、国際的に活躍したいと思っている方は指導室にぜひお越しください。

代表：国際政治学科
政治外交・安全保障コース 3年
三尾 悠介

ジャーナリズム指導室
ジャーナリズム指導室は、新聞社、通信社、及びテレビ局などで活躍するジャーナリストの輩出を目的とした学生団体です。普段の活動では、大手新聞社で長年記者を務めた講師のもと、ディスカッションや作文添削を行っています。また、新聞社やテレビ局への見学を年に数回行っており、マスコミ業界を志望する学生には理想的な環境です。
ジャーナリズム指導室はメンバー同士の仲が良く、和気あいあいとした雰囲気で活動しています。マスコミ業界を志望する方はもちろん、充実した大学生活を送りたい方、ぜひお待ちしています。

代表：国際コミュニケーション学科
国際コミュニケーションコース 3年
鈴木 敬達

SANDS（SIPEC＆SDGs）
「渋谷から世界へ」SDGs（持続可能な開発目標）のトレンドを作り出す。私たちはこのビジョンと共に、SDGs達成に向けて、活動しています。
団体の設立は国連WFPと協働して開催した「飢餓ゼロ1016キャンペーン」でした。その後、活動の幅を広げていき、SDGs出張授業や渋谷区への環境政策の提案・実施、未来食（環境負荷の低い食品）のメニュー開発、ウォーターサーバーの設置など産学官民の連携を重視した多彩なプロジェクトを展開してきました。団体内ではCo-Creationを掲げ、SDGsの新たな価値を共創していきます。ぜひ一緒に世界を変えるアクションを起こしましょう。

代表：国際政治学科
グローバル・ガバナンスコース 3年
滝本 智丹

iEARN
iEARN@SIPECは主に高校生までの子供・若者を対象とした国際協働学習を学生主体でファシリテートする団体です。iEARNというNGOの国際ネットワークに参加している世界中の団体や学校の生徒に向けて平和やゴミ問題を学ぶワークショップをオンラインで開催しています。
さらに、学会で活動成果の発表を行ったり、他国の生徒と相互に文化を紹介したり、JICAやアイヌの方々から貴重なお話を頂いたりすることも出来ます。コミュニケーションを取ることに自信が無くても、先生や先輩が全面的にサポートをして下さるので、安心して楽しく気軽に活動が出来る団体です。

代表：国際政治学科
グローバル・ガバナンスコース 3年
山領 小雪

就職／大学院進学

社会調査士

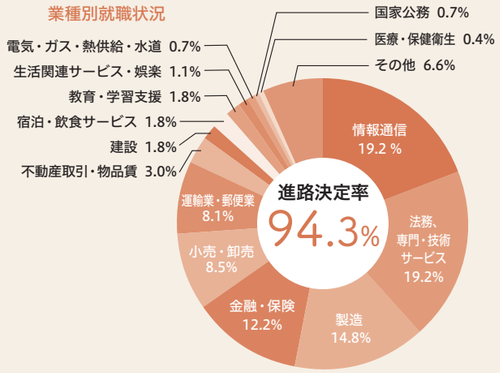
社会調査士は、一般社団法人社会調査協会が認定する資格です。社会調査協会認定の該当科目を履修すると、卒業時に社会調査士資格が取得できます。調査企画の立て方から、アンケートやインタビュー、統計処理などの調査技法を学び、報告書作成まで、実践的なトレーニングを行います。社会現象を科学的・客観的に捉える視点を養い、調査の専門家としての知識・技術を身につけることができます。この資格を取得した卒業生の多くが、調査会社に就職しています。

高い進路決定率を誇る国際政治経済学部

進路・就職センターと学部の教員が協力し、企業サイドの視点を理解するためのセミナーや、実践的な模擬面接などを数多く開催し、学生一人ひとりが自分の適性と将来の目標を十分考慮した上で就職活動に臨むことができるサポート体制を整えています。こうした取り組みが、優良企業や国際機関への就職と、学生本人が満足できる結果となってあらわれています。

■ 2023年度卒業生就職データ

業種別就職状況



■ 公共団体などへのこれまでの就職実績

【国際機関】
アジア開発銀行／国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）／国際連合開発計画（UNDP）JPO／世界銀行／国際連合世界食糧計画（WFP）

【国家公務員】
文部科学省／外務省／参議院外交防衛委員会調査室／農林水産省／東京国税局／東京入国管理局／会計検査院／環境省／経済産業省／国土交通省／防衛省／財務専門官／海上自衛隊幹部候補生学校／防衛施設庁／海上自衛隊

【その他】
国際協力機構（JICA）／国際交流基金／日本銀行／日本貿易振興機構（JETRO）／宇宙航空研究開発機構（JAXA）／日本赤十字社／警視庁／独立行政法人国立印刷局

■ 就職者上位企業・団体

アクセンチュア株式会社	12	日本電気株式会社	6	凸版印刷株式会社	4
楽天グループ株式会社	12	ＰｗＣ　Ｊａｐａｎ有限責任監査法人	5	日本アイ・ビー・エム株式会社	4
日本航空株式会社	8	株式会社三井住友銀行	5	アビームコンサルティング株式会社	4
株式会社三菱ＵＦＪ銀行	7	日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社	5	株式会社エル・ティー・エス	3
ＰｗＣコンサルティング合同会社	6	富士通株式会社	5	株式会社ジェーシービー	3
丸紅株式会社	6	株式会社マクニカ	4	株式会社ベイカレント・コンサルティング	3
国家公務員・東京都	6	三井住友信託銀行株式会社	4	株式会社みずほフィナンシャルグループ	3

（人）

大学院への進学

国際政治経済学研究科では、みなさんの関心とキャリアプランに即して、国際政治学、国際経済学、国際コミュニケーションの3専攻の中から一つを選び、専攻の学びを深めると共に他専攻科目や他研究科科目も履修することができます。国際政治経済学部4年次に大学院科目を先取り履修できる制度や、下記のような支援制度があります。これらを有効に活用してグローバルなキャリアを確かなものとしてください。

■ 大学院科目特別履修

学業成績優秀な第４年次生は一定の条件の下、16単位を限度として大学院授業科目の特別履修が可能です。大学院進学後、この制度で修得した単位を修了要件単位に含むことができます。

■ 就学支援

［修士課程・博士後期課程共通］
・入学金、校友会費全額免除
（本学学部卒業、修士課程修了の場合）
・各種奨学金
・教育ローン
・国際学会発表支援制度

［博士後期課程］
・施設設備料全額免除
（本学修士課程修了の場合）
・若手研究者育成奨学金
奨学金額：授業料年額の全額
※条件有

■ 修了生の主な就職先企業・団体

・パナソニック（株）　・私立大学（教員）
・（株）アクシージア　・（株）JTB
・日本アイ・ビー・エム（株）
・Citigate Dewe Rogerson Japan（同）
・（株）フロンティアコンサルティング
・第一生命情報システム（株）
・（株）椿本チエイン　・富士ソフト（株）
・明治機械（株）　・（株）島津製作所
・（株）ユーキャン・カレッジ
・日生産業（株）　・ボッシュ（株）
・ニッセイ情報テクノロジー（株）
・（株）クロス・マーケティング

グローバル社会で躍動する卒業生

偶発性を楽しみ、挑戦することで道は拓ける

人々の笑顔のために奔走する日々

国際協力機構（JICA）は日本の政府開発援助（ODA）を一元的に担い、開発途上国の自立的な発展を目指して共に課題解決に取り組んでいる機関です。インフラ整備にまつわる資金協力、農業・教育・保健医療といった専門分野での技術協力など、その活動は多岐に渡り、私はここでアフリカ地域での事業を総括するアフリカ部長を務めています。一口にアフリカといっても、抱えている問題点やニーズは国それぞれ。各国の政府の人々と話し合って課題をクリアにし、支援構想を企画。それを外務省や財務省などの日本政府に提案して予算を組み、実施から評価・改善まで、すべてを行うのが私たちの仕事です。

現在、私の業務はスタッフのマネジメントが主ですが、最初は南米のボリビア事務所、その後、ガーナ事務所やモザンビーク事務所にも駐在しました。さまざまな事業に関わったなかで特に印象だったのは、HIV/エイズ啓発・教育のためにJICAとソニー株式会社が共同で行なったパブリックビューイング・イベントです。

2010年のサッカー W杯南アフリカ大会開催時はガーナの15地域18会場にソニー製の大型映像装置を設置し、ソーラー発電を使って試合を生中継。試合前後や合間に啓発のためのクイズ大会や検診を実施し、多くの参加者を集めることができました。普段、電気も通っていない地域で会場に灯りがついたときの子供たちの歓声と笑顔は、今でも忘れられません。

人生を変えた恩師や友人との出会い

大学時代、私は国際協力への思いと経済学の知識を活かして、将来は世界銀行かアジア開発銀行へ入行したいと考えていました。それにあたって大学院に進むか、民間で社会人経験を積むかを迷っていた際、アドバイスしてくださったのがゼミの指導教官だった川勝昭平名誉教授です。「大学院は何歳になっても行ける。まずは民間で金融の仕組みを学ぶほうが後々プラスになるだろう」という助言に従って、私は三菱銀行に入行。約 3 年の勤務において本田技研工業株式会社をはじめ、さまざまな企業と接するうちに「企業でも開発途上国でもまずは人づくりが大切なのではないか」という思いに至りました。ちょうどその頃、同窓生の矢部優慈郎氏から当時開発途上国の人づくりを担っていたJICAの取り組みを紹介され、社会人採用試験にチャレンジすることに。私が今ここにいるのは、まさに国際政治経済学部での出会いがあったからです。

私が常々、心にとめているのはスタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ教授が提唱する「計画的偶発性理論」。キャリア形成は偶発的な出来事に左右されますが、目的意識を持ちつつ好奇心・持続性・楽観性・柔軟性・冒険心の5つを大切に行動することが成功の鍵になるという考え方です。皆さんもぜひ、国際政治経済学部で自分の興味のおもむくままに挑戦を重ねてください。想像以上の出会いによって思わぬ道が拓けるに違いありません。

独立行政法人国際協力機構
（JICA）
アフリカ部長

梁瀬 直樹さん
［1990年 卒業］

Profile

1990年、国際経済学科国際経済学専攻卒業。三菱銀行京橋支店勤務を経て、1993年、国際協力事業団（現在の国際協力機構）に入団。ボリビア事務所などに駐在するほか人的資源・組織開発にまつわる事業を担当する。2005年、マンチェスター大学大学院IDPM（開発マネジメント研究所）人的資源管理修士号を取得。現在は「すべてのJICA関係者一人ひとりが持つ力を最大限発揮できる、明るく元気な組織づくり」を目指し、アフリカ部長として活躍。

❶セネガル出張（帰国研修員との懇談）❷ブルキナファソ出張（UNHCRとの協議）
❸ケニア発電公社関係者の来訪 ❹モザンビーク出張（現地スタッフとの懇談）

大学は、自分の可能性を試していく場

国際協力の仕事を夢みて勉強に励む

私は、今も昔も大学という環境が大好きです。将来は国際協力の仕事に就きたい、英語力を伸ばしたいと、国際政治経済学部への進学を決意。3 年次には交換留学でアメリカのワシントン大学へ。そして卒業後に神戸大学、アメリカのオハイオ州立大学にて修士および博士課程修了と、4 つの大学を渡り歩いて経済を学んできました。交換留学中に現在のトルコ人の夫に出会い、2006年にトルコ共和国に移住。トルコのハジェテペ大学にて教鞭をとり、早16年が経ちます。

ハジェテペ大学には年功序列がなく、自分の好きなことを、自分の責任で全うすることができます。直近では、トルコで新たに建設予定の、原子力発電所による社会経済への影響を分析するプロジェクトに参加し、とてもやりがいを感じました。

トルコという国はEUの環境政策に大きく左右されます。特にEUの気候変動対策は世界の最先端を行っており、それを受けてトルコの内部情勢も目まぐるしく変わるわけです。けれど環境経済を専門とする私から見れば、それは研究材料が豊富にあるということ。現在、関心があるのは、水不足による農業への影響です。せっかく自給自足率が高い国なので、気候変動の悪影響に適応できる政策を提案していければと考えています。

あらゆる経験をした大学 4 年間

青山学院大学で思い出深い先生といえば、石倉洋子先生。試験の回答で、覚えた事例をそのまま書いたら、すぐに見透かされてしまいました。教科書に沿って与えられた問題の解法を学ぶだけで良いのは高校生まで。大学では、オリジナリティあるアイデアや解決策を自ら考えることに価値があることをご指導いただき、強烈な印象として残っています。

また、速水佑次郎先生は恩師ともいえる存在です。開発経済学のビッグネームだった先生の講義は貴重な経験ばかりで、厳しくも直接丁寧に教えていただきました。卒業後も院進の際に紹介状を書いてくださり、私の海外での研究にも意見を述べてきいただき、とても感謝しています。

いっぽう、私の大学生活の半分はAIESEC（アイセック：学生団体）での活動でした。アメリカ、フィリピン、ケニアなど各国のAIESECメンバーでスタディーツアーを実施。ハンガリーで開催された模擬国連に参加したことも。

大学は、とにかく自分の可能性をどんどん試していく場だと思います。目標が見つからない人は特に、能動的に動いてみることです。何もしなくても、あらゆる経験をしても、等しく 4 年の月日は流れます。私は、大学で過ごした時間は充実していたと、胸を張って言えます。青山学院大学を抜きにして、私の人生は語れません。

❶ハジェテペ大学での授業光景 ❷黒海沿岸地域の気候変動への適応とレジリアンスに関するプロジェクトのメンバーと ❸シノップ県でのEUプロジェクトで市長を訪問、インタビュー
❹地方自治体、漁業・観光業従事者に対する経済・社会影響評価の結果報告のワークショップ

トルコ共和国　国立Hacettpe大学
経済学部　助教授

荒 志帆美さん
［2000年度 卒業］

Profile

2000年、国際経済学科卒業。卒業後は神戸大学経済学部修士課程に在籍、その後米国オハイオ州立大学環境経済学部にて修士（2003）および博士課程修了（2007）。2008年よりHacettpe大学経済学部の教職に就任、2021年より現職。専門は環境経済学、行動経済学、統計学等。専門家として気候変動に関するEUプロジェクトなどにも携わる。

教員紹介

[ ]…専門分野 ❶…研究テーマ ❷…ゼミテーマ 兼担…国際マネジメント研究科からの兼任教員
2024年6月現在（2025年度については変更の可能性があります）。

宗教主任

左近 豊 [旧約聖書学]
米国コロンビア神学大学院修了（Th.M.）。プリンストン神学大学院Ph.D.取得。
❶旧約聖書における都市崩壊後の哀歌、および嘆きの詩編の文芸学的研究。

国際政治学科

阿部 達也 [国際法学]
京都大学法学部卒。同大学院法学研究科博士後期課程修了、博士（法学）。
❶法規範の明確性と実効性を視座とする国際法理論の再構築。
❷国際社会における法の支配

泉川 泰博 [国際関係理論、国際安全保障、アメリカ外交、定性的方法論]
京都大学法学部卒。ジョンズホプキンス大学高等国際研究院修士。ジョージタウン大学大学院博士課程修了、Ph.D.（政治学）。
❶同盟理論・リアリスト理論研究、北東アジア国際政治・アメリカ外交
❷外交・国際安全保障問題の社会科学的分析

林 載桓 [比較政治学、中国政治]
ソウル大学社会科学部卒。東京大学大学院法学政治学研究科修了、法学博士。
❶現代中国の政治と外交。
❷転換期中国の政治と経済

押村 高 [政治思想史]
早稲田大学政治経済学部卒。同大学院博士課程修了。政治学博士。パリ第二大学大学院に留学、DEA取得。
❶政治思想史、フランス政治、現代政治理論、国際関係思想史、欧州地域研究、EU研究、政治文明論、ナショナリズム論
❷グローバル化とアイデンティティの現在

倉松 中 [外交史、国際関係史]
国際基督教大学卒。早稲田大学大学院、英国キール大学大学院修了。ロンドン大学LSE大学院に留学。
❶戦間期の日英米海軍軍縮交渉、日英同盟、国際連盟における国際武器取引取締の試み等。
❷国際関係史―「一国外交史」を越えて

古城 佳子 [国際関係論、国際政治経済論、国際制度論]
東京大学教養学部教養学科卒。同大学院修士課程修了、プリンストン大学大学院にてPh.D.（政治学）取得。
❶国際政治と国際制度、経済外交、対外経済政策の形成。
❷経済的相互依存と国際政治

佐桑 健太郎 [国際関係論、紛争研究]
京都大学文学部卒。アリゾナ州立大学大学院、インディアナ大学大学院修了、Ph.D.（政治学）。
❶紛争と安全保障、計量政治分析
❷紛争と平和の科学

佐竹 知彦 [国際関係論、アジア太平洋の安全保障]
慶応義塾大学法学部卒。同大学院法学研究科修士課程修了。オーストラリア国立大学大学院太平洋アジア研究科国際関係学部博士課程修了、博士（政治学・国際関係論）。
❶米国を中心とした「ハブ・アンド・スポークス」同盟体制の変容とその地域秩序への影響
❷豪州や日本の外交・安全保障政策

武田 興欣 [政治学、アメリカ研究]
東京大学法学部卒。プリンストン大学大学院に留学、Ph.D.（政治学）取得。
❶アメリカ連邦議会、アジア系アメリカ人について研究。
❷現代アメリカ合衆国の政治と社会

武田 健 [国際関係論、EUの政治]
早稲田大学政治経済学部卒、同大学院政治学研究科修士課程修了、英国ブリストル大学大学院博士課程にてPh.D.（政治学）取得。
❶EUにおいて国家間協力が進展するメカニズムについての研究
❷EU・欧州統合の研究

藤重 博美 [国際平和活動、平和構築]
同志社大学法学部卒業。ロンドン大学LSE修士課程修了、ロンドン大学SOAS博士課程修了。Ph.D.（政治学）。
❶紛争や国内の不安定さに苦しむ国々の再生や安定、そうした国々に対する国際的な支援策。
❷国連とグローバル・ガバナンス（国境を越える諸問題の解決に向けた国際協力）

J. Patrick Boyd [比較政治学、国際関係論、日本政治]
コロンビア大学東アジア研究学部卒。マサチューセッツ工科大学大学院修士（M.S.）、博士（Ph.D.）（政治学）取得。
❶戦後日本の政治と外交。
❷Political Development in Japan and Asia

和田 洋典 [政治経済学]
慶応義塾大学経済学部卒。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）修士、一橋大学大学院博士課程修了、法学博士。
❶国際経済制度、中国・新興国の台頭。
❷グローバリゼーションの政治経済学

渡邉 理絵 [気候エネルギー政治、政策過程論]
東京大学法学部卒。ベルリン自由大学Otto-Suhr Institut修了（政治学博士）
❶（実証）気候エネルギー政治の日独米比較。
❷政策転換（パラダイム転換）と環境政治

国際経済学科

内田 達也 [応用ミクロ経済学]
青山学院大学国際政治経済学部卒。同大学院博士課程修了、博士（国際経済学）。
❶社会課題に対する経済学的な解決法とデザイン的な解決法の統合
❷社会・組織・私の問題の経済分析

内山 義英 [国際経済学、計量経済学]
青山学院大学国際政治経済学部卒。同大学院博士課程修了、博士（国際経済学）。
❶日本の貿易構造の特性についての研究。
❷日本経済および国際経済問題の実証的研究

岡部 智人 [公共経済学、政治経済学]
慶應義塾大学理工学部卒。オーストラリア国立大学大学院修了（Ph.D.）。一橋大学経済研究所を経て現職。
❶財政政策と政治経済
❷フランコフォニーの社会と経済

NGUYEN Quoc Hung [理論経済学、経済政策]
神戸大学経済学部卒業。東京大学大学院経済学研究科修士課程修了。プリティッシュ・コロンビア大学大学院にてPh.D.（経済学）取得。
❶技術革新や人口動態の変化に関する経済分析
❷Analysis of Global Economy and Finance

島村 靖治 [開発経済学、応用計量経済学]
東京大学教養学部基礎科学科第一卒業。政策研究大学院大学国際開発プログラム 修了。ウィスコンシン大学大学院Ph.D.（農業・応用経済学）
❶アジア、アフリカにおける貧困削減のための持続可能なコミュニティ開発
❷Sustainable Community Development for Poverty Alleviation in Asia and Africa

沈 承揆 [労働経済学]
ソウル大学経済学部卒。ウィスコンシン大学大学院に留学、Ph.D.取得。東京大学経済学部講師。
❶失業、賃金構造、人的資本形成など、労働市場の分析
❷Understanding Contemporary Economic Issues and Policies

瀬尾 佳美 [環境経済学]
大阪大学理学部卒。クラーク大学大学院環境科学・政策学科修士課程修了（MA）。筑波大学大学院博士課程修了、博士（都市・地域計画）。
❶環境リスクの研究。
❷環境経済学、環境リスク学

竹田 憲史 [金融]
早稲田大学政治経済学部卒。ウィスコンシン大学大学院Ph.D.取得。日本銀行金融研究所を経て現職。
❶国際金融、中小企業金融についての理論・実証研究。
❷日本と国際政治経済

武田 朝美 [開発経済学]
青山学院大学経営学部卒業。同大学院国際マネジメント研究科修士課程修了。政策研究大学院大学政策研究科博士後期課程修了、博士（政策研究）。
❶アジアにおける産業発展、及びインフラが貧困に与える影響に関する実証研究

鶴田 芳貴 [産業組織論]
青山学院大学国際政治経済学部卒。筑波大学大学院博士課程修了、博士（社会経済）。
❶競争政策に関連する実証分析。
❷企業活動や規制・産業政策・競争政策に関するデータ分析

友原 章典 [国際経済学]
早稲田大学政治経済学部卒。ジョンズホプキンス大学大学院Ph.D.取得。世界銀行や米州開発銀行にてコンサルタントを経験。
❶移民、貿易、海外直接投資
❷グローバル経済が直面する諸問題について「移民の経済学」と「幸福の経済学」

中川 浩宣 [国際金融、国際マクロ経済学]
慶応義塾大学経済学部卒。ニューヨーク大学大学院M.B.A.、コロンビア大学大学院Ph.D.取得。
❶国際マクロ・金融（international macroeconomics and finance）分野における理論・実証研究。
❷データサイエンス

野村 親義 [経済史]
東京大学農学部卒、東京大学大学院農学・生命科学研究科博士課程修了（博士（農学））。
❶帝国支配とインドの経済発展。
❷グローバルな視点から学ぶ経済史

藤田 幸一 [農業経済学、開発経済学、南アジア・東南アジア地域研究]
東京大学農学部農業経済学科卒業。東京大学大学院農学系研究科修士課程修了。東京大学・博士（農学）。
❶南アジア・東南アジアの経済発展と農村社会の変動
❷アジア開発途上国の農村社会経済開発を学ぶ

山下 直輝 [国際貿易、多国籍企業、イノベーション、アジア経済]
オーストラリア国立大学院博士課程修了、Ph.D.（経済学）。スインバーン工科大学特任リサーチフェロー。アジア開発銀行、国連アジア太平洋経済社会委員会にて国際コンサルタントを経験。Asian Economic Journalの副編集員。
❶グローバリゼーションの日本経済への影響（応用ミクロ経済分析）
❷Economics of Globalisation

国際コミュニケーション学科

井川 肇 [理論言語学（生成文法）]
国際基督教大学卒。カリフォルニア大学アーバイン校大学院留学、Ph.D.取得。
❶生成文法の枠組みの下での日英語の比較研究を行っている。
❷人間言語の成り立ちと仕組み

市来 弘志 [中国魏晋南北朝史、中国歴史地理学]
学習院大学文学部史学科卒業。学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程史学専攻修了。学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程史学専攻単位取得済退学。学習院大学 博士（史学）。
❶五胡十六国時代の遊牧民族史
❷中国西北地域における環境変遷の歴史地理的研究

Richard Evanoff [比較文化]
シカゴ大学大学院修了。英国ランカスター大学よりPh.D.取得。
❶環境哲学、異文化倫理学、異文化ダイアログを研究。
❷国際倫理学

奥村 キャサリン [高等教育学、移民研究、異文化コミュニケーション]
シドニー大学外国語学部フランス語学科卒業。クイーンズランド大学大学院日本語通訳翻訳専攻 修士課程修了。シドニー大学大学院教育学部研究科国際教育専攻修士課程修了。東北大学大学院教育学研究科グローバル共生教育論専攻博士後期課程修了。東北大学博士（教育学）。
❶移民に対するホスト社会の受け入れ意識、多文化共生社会における高等教育機関の役割
❷Immigration and Japan

抱井 尚子 [多文化心理学、混合研究法]
青山学院大学国際政治経済学部卒。ハワイ大学大学院よりPh.D.取得。
❶文化とコミュニケーション。研究法。がん患者の心理社会的問題で海外との共同研究を実施。
❷多文化社会の諸相

勝又 恵理子 [異文化コミュニケーション、多文化教育]
ヒューストン大学クリアレイク校卒。同大学院修了（MA）。クレアモント大学院大学およびサンディエゴ州立大学大学院よりPh.D. 取得。
❶異文化コミュニケーション、異文化教育。
❷Intercultural Communication in Multicultural Societies

國分 俊宏 [フランス文学]
早稲田大学第一文学部卒。同大学大学院修了。パリ第3大学博士課程に留学し、文学博士号取得。
❷表象文化論

猿橋 順子 [社会言語学]
青山学院大学国際政治経済学部卒。同大学院博士後期課程修了、博士（国際コミュニケーション）。
❶社会言語学、言語政策論。
❷都市の社会言語学

末田 清子 [異文化コミュニケーション、対人コミュニケーション]
立教大学社会学部卒。カンザス大学大学院およびカリフォルニア州立大学フラトン校大学院修了（MA）。英国ランカスター大学よりPh.D.取得。
❶研究テーマはアイデンティティ、フェイス（面子）とコミュニケーション。
❷異文化コミュニケーション

田崎 勝也 [文化心理学、異文化・対人コミュニケーション、心理統計学]
ハワイ大学大学院修了、Ph.D.取得。
❶「こころと文化」をテーマに、比較文化の観点から量的研究を行っている。
❷対人コミュニケーション

陳 継東 [中国思想文化と仏教学]
北京大学卒。東京大学博士（文学）。
❶近代中国の思想・宗教、および日中交流史。
❷中国の社会と文化

鳥塚 あゆち [文化人類学、ラテンアメリカ地域研究]
東海大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学、博士（文学）。
❶アンデス先住民社会の変容、牧畜文化比較研究。
❷ラテンアメリカの文化と社会

西村 康平 [理論言語学、音韻論]
国際基督教大学卒。東京大学総合文化研究科より博士号取得。
❶言語の発音に関するバリエーション、語彙クラス、普遍性。
❷自然言語の音声・音韻研究

Petr Podalko [ロシア語教育、歴史学（言語文化学）]
ノボシビルスク大学卒。同大学院歴史学専攻博士課程。大阪大学大学院博士課程修了。言語文化学博士。
❶ユーラシア研究・移民問題・映画史等。
❷東西を一致にしたユーラシア大陸の歴史と文化論、その過去と現在

渡邊 千秋 [スペイン現代史]
上智大学大学院修了。スペイン国立放送大学大学院より博士号取得（史学）。
❶20世紀スペインにおける社会心性。
❷現代スペイン社会を文化横断的に考える

国際マネジメント研究科（兼担）

岩井 千明 [ビジネスゲーミング/シミュレーション、データベースマーケティング]
慶応義塾大学法学部卒。青山学院大学大学院修士課程修了。
横浜国立大学大学院国際社会科学研究科博士課程修了、博士（経営学）。
❶ビジネスゲームの開発、アートとビジネス
❷企業経営と価値創造そしてアート

中里 宗敬 [ファイナンス]
東京工業大学工学部卒。同大学院修士課程修了。
❶証券の価格形成およびバブル発生メカニズムの分析
❷証券市場の分析

前川 志津 [社会学、コミュニケーション学]
ジョージメイソン大学大学院にて修士号取得（コンフリクト・リゾルーション学）。
立教大学大学院にて修士号および博士号取得（社会学）。
❶紛争解決のコミュニケーション。戦後和解。

入学者選抜情報については、下記をご覧ください。

【入学者選抜情報】

（大学ホームページ）

【国際政治経済学部ホームページ】